

口腔疾患予防学演習Ⅲ(歯周病予防)

担当教員 淀川 尚子、石川 裕子、石井 里加子、松尾 文、近藤 悠美、前原 朝子、新任教員
、金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔疾患予防は、人間が日常生活を支障なく送られるように健康を保持・増進するための歯科衛生士による活動である。本演習では、相互演習にて歯科衛生アセスメント、歯科衛生診断、歯科衛生計画、歯科衛生介入、歯科衛生評価により支援方法のプロセスを学び、対象者の病態や生活背景を把握し、個別性を捉えた予防管理が実践できるようになる。また、実践においては対象者の安全・安楽に配慮した技術を習得することができる。

【授業の展開計画】

- | | | |
|--------|-------------------------------|-------------------|
| 1-2. | アセスメントのためのクライアント情報の収集を相互に体験する | 淀川 |
| 3. | 超音波スケーラーの原理・構造・特徴を習得する | 淀川・前原・金子・石井・近藤 |
| 4. | プロービング操作の知識・技術を習得する | 淀川・前原・金子・石井・近藤 |
| 5. | 超音波スケーラーの操作方法を習得する | 淀川・前原・石井・近藤 |
| 6. | ロールプレイ演習により患者教育を習得する | 淀川・前原・石井・近藤 |
| 7-8. | キュレットタイプスケーラーの構造・特徴を習得する | 淀川・前原・石井・近藤 |
| 9. | 上下顎前歯部のスケーラーの操作方法を確認する | 淀川・前原・北田・松尾・石井・近藤 |
| 10. | 口腔保健指導を相互に経験する | 淀川・前原・北田・松尾・石井・近藤 |
| 11-12. | 上下顎前歯部のスケーリングを相互に経験する | 淀川・松尾・北田・前原・石井・近藤 |
| 13. | 歯科衛生計画の立案を習得する | 淀川・松尾・北田・前原・石井・近藤 |
| 14. | 上下顎左側臼歯部のスケーラーの操作方法を確認する | 淀川・松尾・北田・前原・石井・近藤 |
| 15-16. | 上下顎左側臼歯部のスケーリングを相互に経験する | 淀川・松尾・北田・前原・金子・近藤 |
| 17. | 歯科衛生介入の記録方法を習得する | 淀川・松尾・北田・前原・金子・近藤 |
| 18. | 上下顎右側臼歯部のスケーラーの操作方法を確認する | 淀川・松尾・北田・前原・金子・近藤 |
| 19-20. | スケーラーのシャープニング技術を習得する | 前原・淀川・石井・北田 |
| 21-22. | 上下顎右側臼歯部のスケーリングを相互に経験する | 淀川・松尾・北田・前原・金子・近藤 |
| 23-24. | 再評価時の歯科衛生士の役割を習得する | 淀川・前原・金子・近藤 |
| 25. | 再評価時の歯周組織の検査方法を習得する | 淀川・松尾・前原・金子・石井・近藤 |
| 26. | スケーリング技術の習得度を評価する | 淀川・松尾・前原・金子・石井・近藤 |
| 27. | SPT/メンテナンス時の歯科衛生士の役割を習得する | 淀川 |
| 28. | プレゼンテーションの作成方法を習得する | 淀川 |
| 29-30. | ケースプレゼンテーションの方法を経験する | 淀川 |

【履修上の注意事項】

演習に必要な器具等は掲示板にて確認し、持参すること。各自、口腔疾患予防学（基礎技術）資料および授業ごとに配布する資料に事前に目を通し、予習して授業に臨むこと。また、ポートフォリオにて実習プロセスや成果の確認および復習を行い、定期的に提出すること。

【評価方法】

日常的学習成果（技術20%）、随時の小テスト・レポート・ケースプレゼンテーション（80%）を総合して評価する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）

【参考文献】

新・歯科衛生士教育マニュアル 歯周病学

顎口腔機能リハビリテーション演習

担当教員 石井 里加子、前原 朝子、近藤 悠美、金子 憲章、石川 裕子、北田 勝浩、松尾文、新任教員

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

障がい児・者および要介護高齢者に対する顎口腔機能リハビリテーションと口腔のケアの基本的な知識と技術を習得し、要介護者のニーズに合わせた介助と支援ができる。

さらに、顎口腔機能や口腔の問題に応じた口腔ケア計画を立案し、個別性に合わせた器質的口腔ケアと機能的口腔ケアを実施することができる。

【授業の展開計画】

- | | | |
|--------|---|-------------|
| 1. | 顎口腔機能リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割を理解する | (石井) |
| 2. | 機能的口腔ケアと器質的口腔ケアについて説明できる | (石井) |
| 3. | 口腔・咽頭領域の解剖と生理を理解する | (金子・石井) |
| 4. | 摂食嚥下のメカニズムと機能の発達を理解する | (石井・前原) |
| 5-6. | 障がい児・者に対する口腔ケアの介助方法と実施方法を習得する | (石井・前原・松尾) |
| 7-8. | 口腔ケアの体位確保に必要な介助(車椅子移動・ベット移乗)技術を習得する | (近藤・久保田・石川) |
| 9-10. | 要介護者に対する清掃用具の選択と安全な口腔ケア実施方法を習得する | (前原・北田・石井) |
| | 義歯,ブリッジの構造と取り扱いおよび清掃方法を習得する | |
| 11-12. | 口腔ケアの体位確保に必要な介助(車椅子→ユニットの移乗)技術を習得する | (近藤・久保田・淀川) |
| 13-14. | 個別性に合わせた清掃用具の選択と口腔ケアの方法を習得する | (石井・前原・松尾) |
| 15-16. | 摂食嚥下障害の病態と診査・診断を理解する | (山口・石井) |
| 17-18. | 摂食嚥下にかかわる検査評価方法を習得する | (石井・近藤・前原) |
| 19-20. | 摂食嚥下における間接訓練法を習得する | (石井・近藤・前原) |
| 21-22. | 摂食嚥下における直接訓練法を習得する | (石井・近藤・前原) |
| 23-24. | 口腔咽頭吸引の基本技術を理解する | (石井・前原・石川) |
| 25-26. | 要介護高齢者における口腔機能向上の為のトレーニングとレクリエーション方法を習得する | (前原・久保田・石井) |
| 27-28. | 障がい児・者に対する口腔ケア計画を立案する(歯科衛生過程) | (石井・前原・久保田) |
| 29-30. | 要介護高齢者に対する口腔ケア計画を立案する(歯科衛生過程) | (前原・石井・久保田) |

【履修上の注意事項】

予習・復習を行う。

【評価方法】

小テスト50%, レポートならびに提出物50% を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版

【参考文献】

はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護 新井俊二監修 医歯薬出版

在宅口腔保健管理論

担当教員 淀川 尚子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域で生活する様々なライフパンや健康レベルにある人の心身の健康を支援するなかで、在宅という生活の場で療養する人の特徴と支援の実際について理解する。また、在宅で療養する人が望む生活の質や自立に向けて、口腔保健活動を展開するための基本的知識と態度を習得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地域で療養する人に対する社会支援と口腔保健活動の意義について理解する。(淀川)
2	在宅において口腔保健活動を展開するための連携方法を理解する。(淀川)
3	在宅療養者を支援するために必要な医療保険および介護保険制度について理解する。(淀川)
4	在宅において医療・介護を必要とする高齢者の口腔保健管理を理解する。(淀川)
5	疾患や症状に即した口腔保健管理および口腔保健指導を理解する。(淀川)
6	在宅療養者の栄養リスクについて理解し、支援方法を考察する。(淀川)
7	在宅における感染症やインシデントに対する予防対策およびリスクマネジメントを理解する。(淀川)
8	事例を通して在宅療養者の生活の質という観点から支援方法を考察する。(淀川)
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

必要な資料等は掲示板にて確認し、持参すること。各自、配布資料にて予習・復習して授業に臨むこと。

【評価方法】

日間的学習成果（グループワーク時の発言内容20%）、随時小テスト・レポート（80%）を総合して評価する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 高齢者歯科
必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

日本老年歯科医学会監修 口腔ケアガイドブック 歯科衛生士のための歯科医療安全管理

地域口腔保健学演習

担当教員 淀川 尚子、石川 裕子、金子 憲章、北田 勝浩、古賀 由紀子、石井 里加子、松尾 文、近藤 悠美、前原 朝子、新任教員

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ・健康教育の対象となるコミュニティおよびライフステージを認識した指導計画および教育媒体を作成する態度を習得する
- ・地域歯科保健計画立案の要点を習得して、う蝕り患抑制を目的に地域特性を把握した歯科保健計画を立案する

【授業の展開計画】

- 1・2講 地域口腔保健学演習の目的を理解する
計画立案の要点を理解する (藤原)
発達支援臨地実習Ⅰ(保育所・幼稚園)の概要を理解する(近藤)
- 3・4講 指導案の作成法を習得する(古賀)
- 5・6講 5歳児のう蝕り患抑制を目的とする市町村歯科保健計画を立案する(淀川・藤原)
- 7～9講 市広報媒体を作成する(藤原)
- 10・11講 プリシード・プロシードモデルに当てはめて、地域歯科保健目標を設定する(藤原)
- 12～15講 3歳児保護者に対する指導目的の設定と媒体を作成する(藤原・近藤)
- 16～21講 保育園児集団を対象とする指導目的の設定と媒体を作成する(近藤・藤原)
- 22講 熊本市歯科保健事業を知り地域支援臨地実習の心構えをする(熊本市歯科衛生士・藤原)
- 23～26講 高齢者施設入所者を対象とする指導目的の設定と媒体を作成する(前原・藤原)
- 27・28講 集団指導を相互に評価する(近藤・前原・藤原)
- 29・30講 集団指導の教員評価を受ける(藤原・近藤・前原・金子・石川・北田・石井・淀川・松尾)

【履修上の注意事項】

各人が役割を確認して、グループとして協働する態度をもって取り組むこと。
これまでの口腔保健学科で学んだ科目を基礎としているので、事前に関連する知識について調べて臨むこと。

【評価方法】

作製物：60%、出講カード・レポート：40%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 保健生態学，医歯薬出版
日本健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開．保健同人社

歯科医療管理学

担当教員 徳永 淳也、反後 雅博

配当年次 4年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医学の社会への適用である歯科医療では、その過程において社会との間に様々な摩擦が生じることも少なくない。医療費高騰を背景として歯科医療の継続的な質改善による質保証をはかりつつ、効率的、効果的に歯科医療サービスを提供するという新たな医療経済学的命題にも直面している。医療機関の組織管理から保険請求業務の実際や個別の管理学的課題を紹介し、歯科医療の質と評価に関する捉え方や理論について理解を深めることを目的とする。

【授業の展開計画】

1. 歯科医療管理学概論：歯科医療の管理学的構成(徳永)
2. 歯科医療システムの評価(1)：医療システムの鳥瞰的理解(徳永)
3. 歯科医療システムの評価(2)：成果(Outcome)評価と医療経済学的評価(徳永)
4. 歯科医療における品質改善：質改善活動と質保証の視点と理解(徳永)
5. 歯科医療保険制度概説(反後)
6. 歯科医療保険制度の運用と問題点、今後の課題(反後)
7. 歯科医療保険請求業務の実際(1)：書面による請求業務(反後)
8. 歯科医療保険請求業務の実際(2)：コンピュータによる電子的請求(反後)

【履修上の注意事項】

徳永担当分の講義は確認レポートを毎時間課すので欠席しないように努めること。臨地実習で学んだ歯科医療における治療技術や歯科衛生士の行為は、制度体系として患者に何をもたらしていたか、を批判的に吟味して講義に臨み、医療管理学的な考え方が医療の質にどのように貢献するかを講義後に自分の言葉でまとめること。

【評価方法】

講義時の確認レポート50%、定期試験50%で評価する。

【テキスト】

プリントを配布する(徳永担当分)

歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険 第8版(医歯薬出版、末高武彦 著)(反後担当分)

【参考文献】

歯科医療管理—医療の質と安全確保のために 高津茂樹(編) 医歯薬出版
新社会歯科学 可児徳子 末高武彦編著 医歯薬出版

歯科診療補助演習Ⅱ（臨床技術）

担当教員 松尾 文、近藤 悠美、金子 憲章、石川 裕子、北田 勝浩、石井 里加子、淀川 尚子、新任教員、前原 朝子

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床実習で歯科診療の補助・介助を実践するために、より実践に近い技術を学びながら、これまでに学んだ専門的知識を様々な場面で引き出し、診療補助・介助の臨床場面に応用していくことで知識の定着を図り、臨床技術を習得することが本演習のねらいである。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	1-2 既成レジン冠を使用した暫間被覆冠の作成 松尾・前原・石川
2	3-4 パノラマ・頭部エックス線規格撮影／修復物・補綴物別の患者指導 金子・近藤／松尾・北田
3	5-6 パノラマ・頭部エックス線規格撮影／修復物・補綴物別の患者指導 金子・近藤／松尾・北田
4	7-8 口腔外科処置時の診療補助／口腔内写真撮影 松尾・金子・石井／近藤・前原・淀川
5	9-10 口腔外科処置時の診療補助／口腔内写真撮影 松尾・石川・北田／近藤・前原
6	11-12矯正治療時の診療補助／印象採得 北田・近藤／松尾・石川・未定
7	13-14矯正治療時の診療補助／印象採得 北田・近藤／松尾・石川・未定
8	15-16スタディモデルの作製 松尾・北田・石川・未定
9	17-18矯正治療時の診療補助（結紮法）・症例分析法 北田・近藤・松尾
10	19-20光重合レジン修復処置（マトリックスバンドの取扱い） 金子・松尾・近藤
11	21-22歯髄切断法、抜髄法、根管充填処置 松尾・金子・石川・前原
12	23-24歯周外科処置における診療補助 金子・松尾・石川
13	25-26インプラント治療における診療補助 松尾・淀川・石川
14	27-28診療補助総合実習 松尾・近藤
15	29-30診療補助総合実習 松尾・近藤・金子

【履修上の注意事項】

演習に必要な器具等は掲示板にて確認し、持参すること。各自予習して授業に臨み、授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

日常的学習成果（演習態度等20%）、随時の小テスト・実技テスト・事前課題・事後レポート（80%）を総合して評価する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論（医歯薬出版）

【参考文献】

新歯科衛生士教本 歯科診療補助
 歯科衛生士教育マニュアル 歯科診療補助

歯科生体材料学

担当教員 村上 繁樹

配当年次 再履修者（4年）

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

歯科生体材料の科学的基礎知識を学習する。さらに、歯科生体材料を取り扱うことは、生体への医療行為であることを常に認識するように学ぶことができる。

【授業の展開計画】

1. 歯科材料と歯科衛生士、歯科材料の素材および分類
2. 歯科材料の基本的性質
3. シーラント、成形歯冠修復用コンポジットレジン
4. 歯科用アマルガム、グラスアイオノマーセメント、仮封材および仮着材
5. アルジネート印象材および寒天印象材
6. ゴム質印象材
7. ワックスおよび模型材料
8. 合着材および接着材、歯科用補綴装置と材料

【履修上の注意事項】

テキストをよく読んで、予習復習をしてください。

【評価方法】

筆記試験を行い、60点以上を合格とする。

【テキスト】

新歯科衛生士教本 歯科材料の知識と取り扱い 全国歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版

【参考文献】

講義時に適宜紹介する。

口腔保健臨床実習Ⅲ(歯科診療所)

担当教員 松尾 文、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、近藤 悠美、前原 朝子、新任教員
、金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 7

準備事項

備考

【授業のねらい】

学外実習を通して臨床の場における歯科衛生士の役割を理解し、自分の目標とする歯科衛生士像を描くことができる。生活者である患者を通して、口腔保健の役割と機能について理解し、これまでに学んだ知識・技術の習得を図る。また、人々とのコミュニケーションを介して人を感じ、対象者の問題を総合的に把握し理解する能力を身につけ、課題解決に必要な論理的思考力を養うことができる。

【授業の展開計画】

- (1) 診療ごとに必要な器材の準備、取り扱いができる。
- (2) 対象者に合わせてコミュニケーションをとることができる。
- (3) 対象者のニーズを推測することができる。
- (4) 実習指導者からの指示内容を理解し、実践できる。
- (5) スタッフ(他職種を含む)と連携して共同動作、必要なサービスができる。
- (6) 歯科衛生業務を行う上で、情報収集、分析、計画立案ができる。
- (7) 対象者に応じた保健管理指導と業務記録ができる。
- (8) 施設のルールに従って院内感染予防、環境整備を実践できる。
- (9) 再発防止に役立てるために、医療事故や潜在的医療事故に関する情報を報告することができる。
- (10) 実習体験から口腔保健上の問題を発見し、キーワードを挙げて文献を検索することができる。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って臨むこと。
実習中に学んだこと、疑問に思ったことは復習し確認すること。
健康管理に注意して臨むこと。

【評価方法】

実習指導者評価(50%)、教員評価(40%)、実習中および学内日での実習態度(10%)で評価する。

【テキスト】

専門科目の教科書と講義で用いた資料、実習前指導の資料。

【参考文献】

臨床実習 HAND BOOK監修：眞木吉信他

口腔保健臨床実習Ⅳ(病院)

担当教員 松尾 文、新任教員、淀川 尚子、石川 裕子、石井 里加子、近藤 悠美、前原 朝子
、金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 6

準備事項

備考

【授業のねらい】

(1) 高次医療における歯科衛生業務のあり方を考察し、口腔保健の価値を追求することができる。(2) 医療依存度の高い対象者に口腔保健が与える影響を考察し、全人的な歯科衛生活動を実践するための能力を身につける。(3) 多職種と協働する場面に参加することにより、これまでに学んだ知識の定着と技術の習得ができる。(4) 多職種、対象者とのコミュニケーションを介して人を感じ、問題を総合的に把握し理解する能力を身につけることができる。(5) 臨床場面における課題を感取し、解決に必要な論理的思考を養うことができる。

【授業の展開計画】

(1) 二次医療・三次医療における、歯科衛生士の役割を一次医療と比較して説明できる。
(2) 各診療における必要な器材の準備、取り扱いができる。
(3) 対象者の行動や発言を根拠としてニーズを推測する。
(4) 他職種との連携において必要なサービスができる。
(5) 保健・医療・福祉の他職種との連携において、多職種間で共有する対象者のゴール（目標）を上げることができる。
(6) 歯科衛生士業務を行う上で、情報収集、分析、計画立案により対象者のニーズを解決する方法を身につける。
(7) 対象者に応じた保健管理指導と業務記録ができる。
(8) 院内感染予防、環境整備を実践できる。
(9) 医療事故や潜在的医療事故に関する情報を共有することができる。
(10) 実習の体験から解決すべき問題を発見し、文献検索により課題解決へと導く方法を身につける。
(11) 倫理的配慮が必要な場面を上げることができる。
(12) 入院患者の疾患、障害のメカニズムや経過、検査、治療について説明できる。
(13) 入院患者の一日の生活から他職種の援助内容を列挙する。
(14) 入院患者の食事、口腔衛生への援助について考察する。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に臨み、定期的に事前学習レポートを提出すること。また、実習記録をみて振り返り、復習を行うこと。健康管理に注意して実習に臨むこと。

【評価方法】

実習指導者評価（50%）と学内教員評価（50%）を総合して評価する。

【テキスト】

専門科目の教科書および講義で用いた資料

【参考文献】

歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習HAND BOOK（クインテッセンス）

地域支援臨地実習

担当教員 淀川 尚子、新任教員、石川 裕子、石井 里加子、松尾 文、近藤 悠美、前原 朝子、金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

地域住民の健康およびQOLの維持向上支援について口腔保健の観点から学ぶために、玉名市保健センターおよび熊本市区役所保健子ども課において実習する。

【授業の展開計画】

1. 玉名市保健センター
 - 1) 住民の健康増進とのかかわりの観点から、保健センターの機能を理解する
 - 2) 住民の健康増進を目指す多職種連携を理解する
1. 熊本市区役所保健子ども課
 - 1) 熊本市における保健行政の概要を理解する
 - ・ 歯科衛生士の役割を説明することができる
 - ・ 各区役所保健子ども課の事業を類別することができる
 - 2) 健診事業を体験する
 - ・ 歯科健診事業の実施手順を説明することができる
 - ・ 受診者の健康上の問題を報告することができる
 - ・ 多職種協働の具体例を記録することができる
 - 3) 健康相談事業を体験する
 - ・ ライフステージごとの事業を列挙することができる
 - ・ 他職種の役割を説明することができる
 - 4) 普及啓発事業(健康教育)を体験する
 - ・ 実習する健康教育の目的と方法を説明することができる
 - ・ 普及啓発活動の実際例を報告することができる
 - 5) フッ化物応用を体験する
 - ・ フッ化物歯面塗布ならびフッ化洗口における指導上の要点を説明することができる

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に臨むこと。
健康管理には特段の注意をして実習に臨むこと。

【評価方法】

事前学習レポート・実習記録を評価対象とし、実習指導者評価と教員評価をあわせて、総合的に評価する

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 全国歯科衛生士教育協議会 監修
地域口腔保健学演習で用いたテキスト

【参考文献】

臨地実習HAND BOOK 監修：眞木吉信他

発達支援臨地実習 I (保育所・幼稚園)

担当教員 近藤 悠美、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、前原 朝子、新任教員
、金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 乳幼児の成長・発育を観察し、歯科衛生士として乳幼児に対する支援を考察する
- (2) 保育・教育活動に参加し乳幼児の行動を観察し、理解する
- (3) 保育・教育の場で働く職種の役割を理解し、連携の中で歯科衛生士としての役割を考察する。

【授業の展開計画】

行動目標

- (1) 実習配置された園児のクラスを中心に子どもの日常生活を観察する
- (2) 対象園児の食事、遊び、清潔について、情報を整理することができる
- (3) 保育士・幼稚園教諭等の幼児に対する支援を、記録することができる
- (4) 体験した生活自立（食事、清潔）への援助を報告することができる
- (5) 遊びを通じて園児とコミュニケーションすることができる
- (6) 幼児の成長・発育段階を観察し、事前学習した内容と比較し述べることができる
- (7) 対象児に応じた口腔保健指導を立案・実施することができる
- (8) 感染防止や事故防止、口腔清掃時の安全確保に配慮することができる
- (9) 体験・観察したことから幼児の口腔保健に対する支援についての考えを述べるすることができる

実習内容

発達支援臨地実習 I (保育所・幼稚園)の目的を達成するために以下の項目を積極的に取り組むこととする。

a実習配置された園児のクラスを中心に、子どもの発達段階及び日常生活の観察

b対象園児の観察(食事行動、口腔清掃行動、遊び・コミュニケーション)

c生活自立(食事、清潔)への援助

d保育所・幼稚園の教育・行事に参加し、遊びを通して園児とコミュニケーション

e口腔保健教育指導の媒体を作成し、発達段階に応じた指導を実施

dリスクマネジメント(感染防止や事故防止、口腔清掃時の安全)の適切な実施

※カンファレンスの実施

オリエンテーション時に決定したテーマに基づき、実習施設において実習指導者の参加のもと

カンファレンス(発表及び質疑時間は約30分間を予定)を実施する。

<実習計画>

実習前指導 1日、 保育所・幼稚園実習 5日、 実習後指導 半日

【履修上の注意事項】

実習要項の熟読および事前学習レポートを参考に幼児の成長・発育について学習し実習に臨むこと。
健康管理には特段の注意をして臨むこと。

【評価方法】

実習指導者評価(60%)、学内教員評価(40%)

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 小児歯科学(医歯薬出版)

最新歯科衛生士教本 歯科保健指導論

【参考文献】

適宜、紹介する。

発達支援臨地実習Ⅱ(障がい(児)者)

担当教員 石井 里加子、金子 憲章、石川 裕子、北田 勝浩、淀川 尚子、松尾 文、近藤 悠美、前原 朝子、新任教員

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

障がい児・者施設ならびに特別支援学校の概要と他職種の業務や役割を理解し、介助を必要としている人々への支援方法を学ぶ。さらに、障害に応じたコミュニケーション方法や口腔保健の在り方について考察する。

【授業の展開計画】

- 1 特別支援学校について説明できる
- 2 障がい者施設について説明できる
- 3 学習や作業等の場を通して、対象者とコミュニケーションを図ることができる
- 4 学習や作業等の場を通して、対象者のADLや全身の状態を観察できる
- 5 学習や作業等の場を通して、対象者の歯・口腔の状態を観察できる
- 6 感染予防や安全に配慮した介護ができる
- 7 障害に応じた口腔のケアを実施できる
- 8 学校ならびに障がい者施設内の口腔保健管理状況について調べ考察する
- 9 学校ならびに障がい者施設における他職種との協働について考察する

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に臨むこと。
健康管理には十分に注意し、実習に臨むこと。

【評価方法】

実習記録・レポート等、実習指導者評価、教員評価を総合的に評価する

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修
歯科衛生士教本「障がい者歯科」第2版 医歯薬出版

【参考文献】

適宜資料を配布。スペシャルニーズデンティストリー障がい者 一般社団法人日本障がい者歯科学会編

発達支援臨地実習Ⅲ(高齢者)

担当教員 前原 朝子、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、近藤 悠美、新任教員
、金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

高齢者施設において、介護を必要とする高齢者の生活特性および健康課題を分析し、生活の質(QOL: Quality of Life)の向上をねらいとした口腔保健活動の在り方を考察する。高齢者施設における看護師、介護福祉士、栄養士等他職種の役割を学び、歯科衛生士としての協働を考察する。高齢者施設において、介護を必要とする高齢者と職員がコミュニケーションをとる様子を観察し、その手法を学ぶ。高齢者施設において、口腔ケアプラン作成のプロセスを体験する。

【授業の展開計画】

行動目標

- (1) 医療人としての身だしなみで臨むことができる。
- (2) 高齢者施設の特徴を記述することができる。
- (3) 高齢者施設における他職種の役割を職種別に記録できる。
- (4) 口腔機能の維持向上をねらいとしたレクリエーションを実施することができる。
- (5) 介護を必要とする高齢者と非言語的な手段を使ってつながりをもつことができる。
(笑顔, アイコンタクト, うなずき, 肩に手を触れる等)
- (6) 介護を必要とする高齢者のADL・口腔状況を記録することができる。
- (7) 介護を必要とする高齢者のADL・口腔状況から健康課題を1つ以上挙げるができる。
- (8) 共通目標を念頭においたケアプランを立案し記述できる。

実習内容

- ① 高齢者施設の見学
- ② 他職種の業務の見学
- ③ 職員間で行われるカンファレンス等の傍聴による多職種連携の考察
- ④ 身体機能訓練の見学および介助
- ⑤ 入所者とのコミュニケーション
- ⑥ レクリエーションの実施および参加(口腔機能の維持向上をねらいとした健口体操など)
- ⑦ 担当入所者の情報収集
- ⑧ 車いすによる移動等の援助
- ⑨ 食事介助および見学
- ⑩ 口腔ケアの見学および介助(機能訓練を含む)

高齢者施設で上記項目の実習を実施する。

学内で実習前指導、実習後指導を行い高齢者施設における口腔保健の役割と協働について学びを深める

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って実習に臨むこと。
見聞し実習した事柄は、以降の実習に生かせるように、考察をすること。

【評価方法】

評価項目は実習記録、レポート内容とする。評価割合は実習指導者評価80%、科目担当教員評価10%、実習巡回担当教員評価10%とする。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修
最新歯科衛生士教本 「高齢者歯科 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会監修 松井恭平ほか編 医歯薬出版

【参考文献】

介護保険施設における口腔ケア推進マニュアル 公益社団法人 日本歯科衛生士会

口腔保健学概論

担当教員 石川 裕子、伊東 隆利、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、前原 朝子、近藤 悠美、新任教員

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学は、歯・口腔の形態の保持増進、および国民の生活の質的な向上を図ることを実践する学問であり、歯科衛生士は口腔保健を担う職種である。本授業では、口腔保健学を理解するために、歯科衛生士の歴史や主要な業務内容、必要な知識・技術について学ぶ。口腔保健学と歯科衛生士の業務内容を関連付けることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	口腔保健学の定義、歯科衛生業務と口腔保健学、歯科衛生士の歴史（石川）
2	予防の概念、口腔保健学に必要な思考（科学的思考、批判的思考）（石川）
3	歯科衛生士の業務と法律（石川）
4	歯科衛生過程の考え方（石川）
5	歯科衛生士倫理と医療安全（石川）
6	口腔保健と行動科学（石川）
7	病院・施設における歯科衛生士（淀川・松尾）
8	障害者センター・障害者専門診療所における歯科衛生士（石井・前原）
9	歯学部附属病院における歯科衛生士（近藤・石川）
10	社会福祉士や養護教諭資格と歯科衛生士資格、語学と歯科衛生士（松尾・前原・久保田）
11	チーム医療と多職種連携（石川）
12	歯科病院における多職種連携と歯科衛生士の役割（伊東）
13	歯科衛生士とコミュニケーション（石川）
14	歯科衛生士と研究、海外の歯科衛生士（石川）
15	今後の歯科衛生士を考える（石川）

【履修上の注意事項】

口腔保健学科で学ぶ学生として、今後、自分は何をどのように学ぶべきか考えながら授業に臨んでください。

【評価方法】

毎回の授業最後に配布・提出する用紙（50%）、レポート（50%）

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論，医歯薬出版
 全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科衛生士と法律・制度 第2版，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科医療倫理 第2版，医歯薬出版

臨床歯科医学概論

担当教員 金子 憲章、北田 勝浩

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医療の入門編としての歯科疾患の概要と特異性を学び、歯科診療における歯科衛生士の業務内容と歯科診療の流れを説明できる。さらに歯科専門各科での診療内容の概要を学び、各科の持つ歯科衛生士の業務の概要を説明でき、専門分野各論への診療補助への導入を円滑にすることができる。

【授業の展開計画】

1. 歯科医療とは、歯科医療のに携わる人、歯科医療の内容診療科名（金子）
2. 歯科医療の特徴、医の原則、医療安全（金子）
3. 歯科診療所の1日、診察の流れ、歯科医療面接（金子）
4. 歯科医師とのチーム医療、治療の流れ、有病者患者の対応・その注意事項（金子）
5. 歯科保存治療（保存修復・歯内療法・歯周治療）の概要（金子）
6. 歯科補綴治療・口腔外科治療の概要（金子）
7. 小児歯科治療・矯正歯科治療の概要（北田）
8. 高齢者・障がい児に対する歯科治療の概要（金子）

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験90%、レポート10%

【テキスト】

『新・歯科衛生士教育マニュアル 歯科臨床の基礎と概論』 栢 豪洋、升井一郎、石川隆義、山田隆文
クインテッセンス出版

【参考文献】

『ファンダメンタル』 歯科臨床大要 著 戸田 忠夫、末瀬 一彦、志田 亨、神原 敏之 永末書店

歯科臨床医学 I (保存修復・歯内療法)

担当教員 金子 憲章

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

歯科保存修復学は齲蝕、外傷、形成不全などによって生じた歯の硬組織欠損・異常に対して種々の修復法が理解でき、それに伴い歯の機能が正常に回復できたことを説明できる。さらに各修復法に使用する器具・材料等の取り扱いおよび術式についても説明できる。歯内療法学は齲蝕、外傷等により生じた、歯髄病変の症状、診査・診断を学び、その治療法を理解し、必要な器具、薬剤、術式を説明できる。さらに歯髄炎に継発して生じる根尖性歯周疾患の原因、症状、診査・診断、治療法についても説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歯の保存療法の種類：保存修復と歯内療法の違い、対象疾患(硬組織疾患, 歯髄・根尖性歯周疾患)
2	口腔診査：現象の診査（視診, 触診, 打診, 温度診, 電気歯髄診, 透照診, インピーダンス診査, EMR)
3	う蝕：脱灰と再石灰化、う窩の状態、摩耗・咬耗症の違い、侵蝕症、形態異常、変色
4	保存修復の概要・準備：窩洞の分類・条件、歯間分離、ラバーダム、隔壁法、切削器具、裏層
5	直接修復：コンポジットレジン充填（マトリックスレジン、フィラー）
6	直接修復：セメント修復（グラスイオノマーセメント、その他のセメント）
7	間接修復：インレー及びアンレー修復（印象法、鋳造法）、ベニヤ修復、合着剤及び接着剤
8	保存修復における歯科衛生士の役割：充填時の補助、印象採得の方法、患者管理
9	歯内療法の概要：歯内療法の意味、歯内疾患の原因
10	歯内療法の種類とその症状処置
11	歯髄の保存療法：歯髄鎮静療法、覆髄法（間接・直接覆髄に関する薬剤、方法、使用器具）
12	歯髄の除去療法：歯髄切断法（使用する薬剤、方法、使用器具）、抜髄（使用する薬剤、方法、使用器具）
13	根管治療・根管充填：根管治療の概念・術式、根管充填、使用器具
14	外科的歯内療法：切開、歯根尖切除術、ヘミセクション、歯根切断、歯根分離、歯の外傷
15	歯内療法における安全対策・歯科衛生士の役割・歯のホワイトニングの方法と薬剤

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験80%、授業中の小テスト評価20%

【テキスト】

『最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法学』
全国歯科衛生士教育協議会 監修 松井恭平他編集 医歯薬出版

【参考文献】

歯内療法学 戸田忠夫ら[編] 医歯薬出版
保存修復学 平井義人ら[編] 医歯薬出版

歯科臨床医学Ⅱ（歯周病治療）

担当教員 金子 憲章

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

歯周疾患を引き起こす原因とその発症過程を学び、歯周疾患に関する基礎知識と臨床的術式を説明できる。また、歯周病予防の考え方と歯周基本治療からメンテナンスまでの治療過程を学び、歯周治療の概念を理解できる。歯周治療において使用する器具、および歯周外科の手術法、各手術に使用する器具の種類、使用法についても説明できる。さらに歯周疾患がある種の全身疾患に関連し、又増悪させることを学び、歯科衛生士が行う予防と治療後の予後管理の重要性についても説明できる。

【授業の展開計画】

1. 歯周組織の構造と機能: 歯肉, 歯根膜, セメント質, 歯槽骨の構造と機能
歯周病の疫学: 指数とその評価
2. 局所的病因: プラーク (歯周病関連細菌・バイオフィルム), プラーク保持因子の種類
3. 全身的因子: 全身疾患 (糖尿病・薬物・遺伝疾患等), リスクファクター (喫煙・ストレス等)
4. 歯周病の病態: 歯周組織の病的変化
歯周病の分類: 歯肉炎, 歯周炎 (慢性歯周炎・侵襲性歯周炎等)
5. 歯周病の診査: 診査 (プロービング・出血の診査・動揺度診査・根分岐部診査・アタッチメントレベル等)
歯周治療の診断と治療の進め方: 診断と予後, 歯周治療の流れ, 治療計画
6. 歯周基本治療: 歯周基本治療の意義, 歯周基本治療の内容 (プラークコントロール・スケーリング・ルートプレーニング・咬合調整・暫間固定等)
7. 歯周外科治療: 意義, 術式の種類, 各術式に必要な器具
8. メンテナンス・SPT: 治療と病状安定の違い, メンテナンス・SPTの重要性, チーム医療の意義

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験80%、授業中の小テスト評価20%

【テキスト】

『新・歯科衛生士教育マニュアル・歯周病学』 上田雅俊 音琴淳一 栢 豪洋他 編集
クインテッセンス出版

【参考文献】

『カラーアトラス・歯周基本治療』 岩山幸雄 編集 医歯薬出版
『ラタイチャーク・カラーアトラス 歯周病学』 日本臨床歯周病学会 訳 永末書店

歯科臨床医学Ⅲ(補綴・高齢者)

担当教員 村上 慶、前原 朝子

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

補綴：口腔機能回復の中心となる学問で、口腔生理、解剖、顎関節、咬合、材料、固定式修復物、可撤式修復物、インプラント補綴等内容は多岐にわたる。CAD/CAMシステムの発達など今後も発達していく分野である。この授業のねらいは、その基礎となることを学び、歯科臨床の現場で対応できる知識を得ることである。

高齢者：ライフステージの最終発達段階にある高齢者の基本的知識を学び、高齢者を支援する立場から社会状況や生活環境を知り、歯科衛生士としてでき得る支援について考える態度を養う。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	歯科補綴の概要、歯の欠損に伴う障害と補綴
2	補綴歯科治療の基礎知識、補綴装置の種類とその構造
3	補綴歯科治療における検査・診断、クラウン・ブリッジ治療の実際
4	有床義歯治療の実際、インプラント治療の実際
5	歯科材料の基本知識、前半内容チェック（小テスト）
6	補綴歯科治療に用いられる器材、補綴歯科治療における歯科技工
7	検査・診断時の業務、治療時の業務（クラウン・ブリッジ治療）
8	治療時の業務（有床義歯治療）、患者指導（有床義歯治療）
9	患者指導（クラウン・ブリッジ治療）、患者指導（インプラント治療）、器材の管理
10	後半内容チェック、まとめ
11	高齢者をとりまく社会と生活の場について説明することができる
12	高齢者の身体的機能、精神・心理状態（認知症）について特徴を説明することができる
13	高齢者の口腔の特徴と疾患について列挙し、状態を説明することができる
14	高齢者に対する摂食・嚥下リハビリテーションの方法について説明することができる
15	症例を通して歯科衛生士の立場からでき得る支援を考察する

【履修上の注意事項】

第1講～第10講までは補綴および歯科材料について、第11講～第15講は高齢者について学びます。

高齢者では、毎回課題レポートを作成して授業の理解度を確認します。第15講はそれまでの内容をふまえて考察しますので、毎回の授業を復習しておくこと。

【評価方法】

日常授業評価40%（補綴：小テスト、高齢者：課題レポート）、期末試験60%で評価します。それぞれの担当教員の評価を合計して科目の評価とします。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本「咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴」医歯薬出版、「改訂版 イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」永末書店、最新歯科衛生士教本「高齢者歯科」医歯薬出版

【参考文献】

歯科衛生士講座 高齢者歯科学 第2版 森戸光彦ほか編 永末書店

歯科臨床医学Ⅳ(小児・障がい児者)

担当教員 北田 勝浩、石井 里加子

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

胎児期から青少年期までの成長・発達をふまえ、各ライフステージでの全身および口腔の正常像、口腔疾患とその予防・治療法ならびに口腔の健康管理、顎骨、歯列および咬合の成長発育について体系的に説明できる。障害の概念や障がい者の現状を理解するとともに、歯科衛生士としての基本的な心構えやあり方について述べるができる。さらに、質の高い歯科医療や口腔保健の提供が、障がい児・者のQOLの向上や自己実現につながることを学び、具体的な対応方法や歯科診療の補助、健康支援方法について概説できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	小児歯科学概論、心身の発育	(北田)
2	小児の生理的特徴、顔面頭蓋の発育	(北田)
3	歯の発育と異常	(北田)
4	歯列・咬合の発育と異常	(北田)
5	小児の歯科疾患 う蝕、歯周疾患、軟組織疾患	(北田)
6	小児期の特徴と歯科的問題点	(北田)
7	小児歯科診療(1) 診療体系、治療の原則、診査・検査、麻酔、歯冠修復	(北田)
8	小児歯科診療(2) 歯内療法、外科的処置、外傷、咬合誘導、定期検診	(北田)
9	患児の対応法(1) 小児の態度と行動、一般的対応	(北田)
10	患児の対応法(2) 行動療法、抑制的対応、鎮静・減痛、全身麻酔、緊急時対応	(北田)
11	障害の分類、障がい者における口腔保健の現状と歯科衛生士の役割	(石井)
12	障害と疾患の特徴 身体障害、知的障害、精神障害	(石井)
13	障害と疾患別歯科診療の補助 行動調整法、リスク管理	(石井)
14	障がい児・者におけるセルフケアの支援	(石井)
15	障がい児・者における口腔健康管理方法	(石井)

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること。授業の内容について、十分に復習すること。発達支援臨地実習Ⅰ(小児)および発達支援臨地実習Ⅱ(障がい児・者)の先修科目です。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果(20%)、定期試験(80%)を総合して、北田担当分65点と石井担当分35点の合計100点満点で評価する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 小児歯科学：全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本 障害者歯科第2版：全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)

【参考文献】

小児歯科学<第4版>：高木裕三、田村康夫、井上美津子、白川哲夫 編(医歯薬出版)
他、講義の中で適宜紹介する。

歯科臨床医学V (矯正)

担当教員 北田 勝浩

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

不正な成長発育により生ずる不正咬合の予防および治療法について体系的に説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	矯正歯科治療の概要
2	成長・発育
3	正常咬合と不正咬合
4	矯正歯科診断
5	矯正歯科治療と「力」— 強制力・顎整形力・保定 —
6	矯正装置
7	上下顎の前後的関係の不調和、上下顎の垂直的關係の不調和
8	成人矯正、口腔顎顔面の形態異常と変形
9	歯の埋伏と歯数の異常、矯正歯科治療時のトラブルへの対応
10	矯正歯科診断にかかわる業務
11	器具・材料の準備と取り扱い
12	装着時の補助と指導（可撤式・固定装置）
13	装着時の補助と指導（機能的矯正装置、上顎側方拡大装置、顎外固定装置）
14	矯正歯科患者と口腔保健管理
15	口腔筋機能療法、器材、資料、文書の管理

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること。授業の内容について、十分に復習すること。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果（20%）、定期試験（80%）を総合して評価する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正：全国歯科衛生士教育協議会 監修（医歯薬出版）

【参考文献】

歯科矯正学＜第5版＞：相馬邦道、飯田順一郎、山本照子、葛西一貴、後藤滋巳 編（医歯薬出版）
他、講義の中で適宜紹介する。

口腔外科学

担当教員 金子 憲章

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

口腔外科は医学的な要素が多く見られる分野で、口腔・顔面領域に生じる各種疾患を大きく分類できる。先天異常、発育異常、歯の外傷、歯槽骨骨折、顎骨骨折の特徴と治療を説明できる。各種粘膜疾患・嚢胞の特徴と治療を説明できる。良性腫瘍・悪性腫瘍の特徴と治療を説明できる。顎関節疾患・唾液性疾患の特徴と治療を説明できる。神経性疾患・口腔内に症状を現す血液疾患の特徴と治療を説明できる。また歯科における麻酔は、全身疾患の有無、処置の内容により対応が異なり、その適応を説明でき、適切な準備ができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	口腔外外科総論：口腔外科はどんな治療を行うか：口腔外科診療のプロセス
2	先天異常と発育異常：歯の異常、口腔軟組織の異常、口唇・口蓋裂、その他の先天異常
3	口腔の損傷：歯・軟組織の損傷、歯槽骨・顎骨骨折
4	口腔粘膜疾患：潰瘍、びらん、水疱形成、白斑、色素沈着、口腔乾燥、舌の病変
5	炎症：歯槽骨・顎骨炎症、顎骨周囲組織の炎症 嚢胞：顎骨・軟組織の嚢胞
6	腫瘍：良性腫瘍・悪性腫瘍
7	顎関節疾患：脱臼、顎関節症 唾液腺疾患：唾液腺炎、唾液腺腫瘍
8	神経系疾患：三叉神経痛、顔面麻痺、舌痛症、オーラルディスキネジア
9	血液疾患：赤血球・白血球に起因する疾患、出血傾向を示す疾患
10	抜歯と口腔外科小手術：抜歯と小手術で注意すべき全身疾患・服用薬、抜歯の基本、偶発症
11	口腔インプラント治療：インプラント治療の概要
12	放射線治療と化学療法：放射線治療と化学療法の治療法、 災害時における歯科衛生士の役割
13	歯科麻酔に関連するバイタルサイン
14	歯科治療と局所麻酔・吸入鎮静法・静脈内鎮静法
15	歯科治療と全身麻酔 歯科麻酔による偶発症

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験80%、授業中の小テスト評価20%

【テキスト】

『新歯科衛生士教育マニュアル 口腔外科学・歯科麻酔学』池邊哲郎、升井一郎、吉増秀實、伊賀浩紀 クインテッセンス出版

【参考文献】

口腔外科学 泉廣次 学建書院

歯科放射線学

担当教員 金子 憲章

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

放射線の生物学的影響、防護について説明ができ、またエックス線写真の処理が行え、口腔内エックス線写真およびパノラマエックス線写真の手技を説明できる。更に口腔領域の基本的な病変像のエックス線所見を説明できる。

【授業の展開計画】

1. 放射線とエックス線:放射線とは、エックス線の性質
2. 放射線の影響:単位、生体に対する影響
3. 歯科用エックス線撮影装置, エックス線画像の形成
4. 撮影法(口内法):2等分法、平行法、咬合法
5. 撮影法(口外法):パンラマエックス線写真、原理
6. フィルム処理, デジタルエックス線システム
7. 正常なエックス線画像, 病変の画像例:エックス線写真の読影
8. 放射線の防護と管理, 放射線治療:放射線防護の理念と防護法:放射線治療とは

【履修上の注意事項】

講義は教科書を中心に行うため必ず持参する。
必要な場合、一部は講義中に資料を配布する。授業前に次授業項目について教科書を読み予習しておくこと、また授業後は復習しておくこと。

【評価方法】

試験 100%

【テキスト】

わかりやすい歯科放射線学第3版 監修:有地榮一郎、笹野高嗣、馬嶋秀行、湯浅賢治、代居敬 学建書院

【参考文献】

新歯科衛生士教本 歯科放射線学 医歯薬出版

口腔疾患予防学

担当教員 北田 勝浩

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「口腔保健衛生学」で学んだ口腔疾患の病因、病態、予防法に関する知識をもとに、口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病の病因、病態、予防処置に関する方法・技術を学び、歯科衛生士の業務としての専門的予防処置法について体系的に説明できる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	う蝕と歯周病の基礎知識 (1) 口腔内の付着物・沈着物、う蝕
2	う蝕と歯周病の基礎知識 (2) 歯周病
3	予防の概要 (第一次、第二次、第三次)
4	食品とう蝕誘発性、う蝕予防のための食生活指導法
5	う蝕リスク検査法 意義、目的、各種検査法
6	う蝕リスク検査法 口腔乾燥状態の評価
7	フッ化物の応用 (1) 総論、作用機序、安全性
8	フッ化物の応用 (2) 全身応用、局所応用
9	フッ化物の応用 (3) 歯面塗布法、洗口法、フッ化物配合歯磨剤
10	小窩裂溝填塞法、フッ化ジアンミン銀塗布法 (第二次予防)
11	歯周組織の評価 (検査) 法
12	口腔清掃方法、歯磨剤・洗口剤
13	スケーラーの種類とスケーリング法 (1) 手用スケーラー
14	スケーラーの種類とスケーリング法 (2) 超音波スケーラー、エアースケーラー
15	機械的歯面清掃法 (PMT C)

【履修上の注意事項】

授業前にテキストをよく読み、次回の内容について予習すること。授業の内容について、十分に復習すること。

【評価方法】

レポート等の日常的学習成果 (20%)、定期試験 (80%) を総合して評価する。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論：全国歯科衛生士教育協議会 監修 (医歯薬出版)

【参考文献】

新予防歯科学<第4版>：米満正美、小林清吾、宮崎秀夫、川口陽子、鶴本明久 編 (医歯薬出版)
他、講義の中で適宜紹介する。

口腔疾患予防学実習 I (基礎技術)

担当教員 前原 朝子、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、近藤 悠美、金子 憲章、新任教員

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

臨床実習で歯周病の1~2次予防介入をするために、クライアントの安心・安全な環境を整えて個別性に応じた介入をするための基礎技術および態度を習得する。①予防処置を実施するにあたって、作業姿勢を整えて介入することができる、②クライアントの安心安全に配慮するための要点を説明することができる、③歯周病リスク要因を観察して整理することができる、④歯周病予防を目的とする歯科衛生介入計画を提示することができる。

【授業の展開計画】

模型実習室・臨床実習室を使用して、2部授業の形式で行う。

- 1- 2・基本姿勢の決め方の基準を知り、習得する(藤原、松尾、近藤、前原、北田)
- 3- 4・模型上(上下顎前歯部)で鎌形スケーラーを操作する、臨床における態勢の整え方を習得する(藤原、近藤、北田、松尾、石井、前原) □□□□
- 5- 6・臼歯部でスケーラーを操作する。ユニット操作法を習得する(藤原、淀川、近藤、松尾、石井、前原)
- 7-10・下顎臼歯部でスケーラーを操作する。偶発事故防止法を理解する(淀川、石井、藤原) □□
 - ・患者誘導、口腔内薬物塗布、上下顎前歯部のスケーリングを相互に実施する(近藤、前原、金子) □
- 11-14・シャープニングを模倣する。模型上でプローブを操作する。下顎左側臼歯部頰側でスケーラーを操作する
 - ・上下顎前歯部のスケーリングを相互に経験する(松尾、藤原、石川、淀川、近藤、前原)
- 15-18・クライアント情報の収集を体験する□ 上下顎臼歯部でスケーラーを操作する□
 - ・上下顎前歯部のスケーリングを相互に経験する(金子、藤原、淀川、前原、石井、北田) □□
- 15-18・臼歯部のスケーラー操作技術の精度を高める。クライアント情報の収集能力を高める
 - ・上顎臼歯部のスケーリングを相互に経験する(金子、藤原、淀川、前原、石井、松尾) □
- 23-26・スケーリング後の歯面研磨基礎技術を模型上で適用する(藤原、北田、前原)
 - ・観察による患者情報の収集と記録を相互に経験する(金子、淀川、石川)
- 27-30・シャープニング技術の精度を高める。ホームケアへの助言を中心に相互に歯科衛生介入する
 - ・スケーリング後の歯面研磨を相互に経験する(藤原、松尾、前原、淀川、近藤、北田)

【履修上の注意事項】

- ・技術習得のために、課題意識をもって演習に取り組むこと
- ・教員に助言を求めるなど、自ら問題を解決する態度をもって取り組むこと。問題の解決は開講回ごとに行い、次回実習にいかすようにすること。

【評価方法】

技術習得度評価(実技試験) : 60%、出講カード : 40%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)

【参考文献】

上田雅俊ら編：新・歯科衛生士教育マニュアル 歯周病学(クインテッセンス出版)

口腔疾患予防学実習Ⅱ(う蝕予防)

担当教員 北田 勝浩、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、近藤 悠美、前原 朝子、金子 憲章、新任教員

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

う蝕の一次予防に関する知識、方法および技術を体系的に説明できる。

【授業の展開計画】

- | | | |
|--------|-------------------------------|---------------|
| 1. | う蝕の一次予防法の基本的知識の理解 | (北田) |
| 2. | 口腔観察の基本的知識・技術の理解(模型実習) | (前原、石川、北田) |
| 3-4. | 口腔観察の基本的知識・技術の理解(相互実習) | (前原、石川、北田) |
| 5-6. | 口腔乾燥状態の評価方法の基本的知識・技術の理解 | (北田、未定、前原) |
| 7-10. | う蝕活動性試験の検査方法の基本的知識・技術の理解 | (北田、未定、前原) |
| 11-12. | 口腔清掃状態の評価法の基本的知識・技術の理解 | (石井、松尾、近藤) |
| 13-14. | 口腔清掃方法の基本的知識・技術の理解 | (石井、松尾、近藤) |
| 15-16. | う蝕リスクに関する歯科衛生過程の展開方法の理解 | (淀川、石川) |
| 17-18. | 専門的歯面清掃の基本的知識・技術の理解(模型実習) | (淀川、未定、近藤) |
| 19-20. | 専門的歯面清掃の基本的知識・技術の理解(相互実習) | (淀川、未定、近藤) |
| 21-22. | フッ化物局所応用法(洗口、歯磨剤)の基本的知識・技術の理解 | (北田、未定、前原) |
| 23-24. | フッ化物局所応用法(歯面塗布)の基本的知識・技術の理解 | (北田、未定、前原) |
| 25-26. | 小窩裂溝填塞法の基本的知識・技術の理解(模型実習) | (金子、近藤、前原、北田) |
| 27-28. | 小窩裂溝填塞法の基本的知識・技術の理解(相互実習) | (金子、近藤、前原、北田) |
| 29-30. | う蝕予防に関する歯科衛生過程の基本的考え方・展開方法の理解 | (淀川、石川) |

【履修上の注意事項】

実習衣を着用し実習に臨む。
事前に配布された資料、器材は必ず持参する。
実習内容について、十分に予習および復習する。
口腔保健臨床実習Ⅲ(発展実習)および口腔保健臨床実習Ⅳ(応用実習)の先修科目です。

【評価方法】

実習中の小試験または技能試験、もしくはレポート等の学習成果により100%評価する。
再試験は実施しない。

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論：全国歯科衛生士教育協議会 監修(医歯薬出版)

【参考文献】

フッ化物応用の科学(財団法人 口腔保健協会)
新フッ化物ではじめる虫歯予防 筒井昭仁他 (医歯薬出版)

口腔介護マネジメント論

担当教員 石井 里加子、河谷 はるみ

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔領域に疾病や障がいを抱え、日常生活を営むことが困難な状態にある人に対して、歯・口腔の健康の回復と維持・増進を図り、対象者の自立した生活と豊かな人生を支援することを学ぶ。

対象者の歯・口腔ならびに全身状態を把握し、専門的な口腔のケアを実施するための基礎知識を習得する。

【授業の展開計画】

- | | | |
|---|---|----|
| 1 | 口腔介護の概念と歯科衛生士の役割について理解する | 石井 |
| 2 | 口腔保健に関連した日本の施策、制度について説明できる（医療保険、介護保険、歯科保険制度等） | 河谷 |
| 3 | 介護に関連した法律について説明できる（医療介護総合確保推進法と地域包括ケアシステム等） | 河谷 |
| 4 | 器質的・機能的口腔のケアについて説明できる | 石井 |
| 5 | 顎口腔機能の発達を理解する | 石井 |
| 6 | 摂食嚥下リハビリテーションについて概説できる | 石井 |
| 7 | 口腔の疾患と異常の観察ができる | 石井 |
| 8 | 要介護者に対する安全な口腔のケアの実施方法について説明できる | 石井 |

【履修上の注意事項】

本科目は、3年生での口腔介護マネジメント実習につながる基礎内容となる。
開講回ごとに復習を行うこと。

【評価方法】

試験80%，レポート等の日常的学習成果20% を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 日本歯科衛生士会監修 医歯薬出版

【参考文献】

適宜資料を配布あり。最新歯科衛生士教本 高齢者歯科，障害者歯科 医歯薬出版
はじめて学ぶ歯科衛生士のための歯科介護 第3版 医歯薬出版

健康教育総論

担当教員 石川 裕子

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

色々な場所で人々の健康を守る活動を行うために、健康教育についての基礎知識を習得する。①健康教育の目的を説明できる②国の健康対策について列挙できる③歯科における健康教育について説明できる

【授業の展開計画】

- 1 健康教育、ヘルスプロモーションとは
- 2 国の健康対策、歯科口腔保健法
- 3 行動と行動変容、自己効力感
- 4 健診と健康教育
- 5 歯科における健康教育、健康教育の方法
- 6 色々な場面における健康教育
- 7 指導案の作成
- 8 指導案の発表、健康教育に関与する論文のレポートを作成

【履修上の注意事項】

この授業は2年生で学ぶ口腔保健指導論や3年生以降で行われる臨床実習や臨地実習に繋がる授業です。広い意味での健康教育を学んでください。

【評価方法】

期末試験80%、レポート20%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版, 医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論, 医歯薬出版

【参考文献】

Karen Glanzら編：健康行動と健康教育 理論, 研究, 実践, 医学書院
全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝, 医歯薬出版

口腔保健指導論

担当教員 松尾 文

配当年次 2年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

人が健康を保持・増進していくには、その人自身が目標をもって努力をしなければならない。歯科衛生士は、人々が健康生活を送るために努力することを、あるいは努力するように、口腔保健領域における健康づくりを中心課題として支援する。本講義では、その支援を目的に行う健康教育”の方法論を理解し、また、地域保健における口腔保健活動（健康教育展開）のあり方について考察する。

【授業の展開計画】

- | | |
|--------|--|
| 1・2講 | 1. 口腔の健康を保持・増進することの意義を理解し、その支援者・歯科衛生士を考える（藤原） |
| 3～5講 | 2. 行動の変容についての学習モデル・理論を理解する
1) 自己効力感の考え方を理解する（+健康信念モデル）（近藤）
2) ソーシャル・サポートの考え方を理解する（+ストレス・コーピング）（松尾）
3) プリシード・プロシードモデルの考え方を理解する（藤原） |
| 6講 | 3. 地域保健計画において地域診断がもつ意味を理解する（藤原） |
| 7～11講 | 4. 各ライフステージにおける口腔保健課題に対する支援を考察する
1) 乳幼児期における口腔保健の課題（近藤）
2) 妊産婦期における口腔保健の課題（近藤）
3) 学齢期における口腔保健の課題（藤原）
4) 青年期（15～29歳とする）における口腔保健の課題（松尾）
5) 成人期における口腔保健の課題（松尾）
6) 老年期における口腔保健の課題（前原）
7) 生産年齢期（産業歯科保健）の問題（藤原） |
| 12講 | 5. 文科省が育成を目指す「生きる力」について理解する（藤原） |
| 13講 | 6. テーマの洗い出し方法として、ブレインストーミングおよびKJ法を理解する（藤原） |
| 14講 | 7. ノーマライゼーションへの具体的活動として地域リハビリテーションを理解する（藤原） |
| 15・16講 | 8. 保健・医療・福祉によるヒューマンケア組織としての活動について理解する（藤原） |
| 17・18講 | 2. 地域口腔保健計画立案の基本的考えを理解する（淀川） |
| 19講 | 3. 1) 人びとの健康づくりのための口腔保健計画における評価の目的と意義を理解する（藤原）
2) 国際保健支援における口腔保健プログラム立案をプライマリヘルスケアと関連付ける |
| 20講 | |
| 21・22講 | 4. 熊本県保健医療計画における歯科保健医療計画を理解する（熊本県歯科衛生士） |
| 23・24講 | 5. 保健政策にかかわる健康格差という課題を認識する（藤原） |
| 25～27講 | 6. 住民参加・住民主体の保健福祉活動の意義を理解する（藤原） |
| 28～30講 | 7. 被災地における口腔保健対策について概要を理解し、歯科衛生士の役割を考察する（藤原） |

【履修上の注意事項】

- ・質問を歓迎します。覚えるのではなく、考える力を養ってください。
- ・そのために、シラバスを確認して関連する既習内容を予習確認して受講すること。
- ・内容を発展させたり積み重ねる形で講義が進行するので、要点を復習しておくこと。
- ・試験は目標を中心に出题します。

【評価方法】

評価は試験：60%、出講カード・レポート：40%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 保健生態学、医歯薬出版

【参考文献】

松本千明：健康行動理論、医歯薬出版、健康教育学会編：健康教育 ヘルスプロモーションの展開、保健同人社
 神馬征峰ら訳：ヘルスプロモーション、医学書院、近藤克則：健康格差社会、医学書院 ほか

食生活指導

担当教員 石川 裕子

配当年次 3年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

歯科衛生士として食生活指導を行うために、栄養学・生化学の基礎知識と技能を総合的に習得する。
①食生活を分析し指導内容を立案することができる②病態と食生活指導について説明することができる

【授業の展開計画】

- 1-2 食生活指導とは
- 3-4 現代の食生活の問題、ダイエットについて
- 5-6 基礎知識の復習（五大栄養素）
- 7-8 基礎知識の復習（消化・吸収・代謝）
- 9-10 食生活分析法（バランスガイド・パソコンを使用して分析）
- 11-12 食生活分析した内容を使用して指導内容を立案する
- 13-14 ライフステージと栄養、乳幼児と栄養、食育、おやつ指導
- 15-16 おいしさと食形態
- 17-18 味覚と栄養
- 19-20 病態と食生活指導
- 21-22 NSTについて
- 23-24 歯科における保健指導のなかでの食生活指導
- 25-26 禁煙支援、摂食支援
- 27-28 食生活指導の立案
- 29-30 栄養と歯科に関する論文、まとめ

【履修上の注意事項】

1年次に学習した生化学、解剖生理学Ⅱ、生活栄養学の内容（消化・吸収・代謝など）を復習してください。授業中に配布する資料・プリントはファイルし、教科書と一緒に持参してください。

【評価方法】

期末試験70%、レポート30%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝，医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論，医歯薬出版

【参考文献】

中村美知子ら編：わかりやすい栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際，ニューヴェルヒロカワ
香川芳子監修：五訂 食品成分表，女子栄養大学出版

歯科診療補助総論

担当教員 石川 裕子

配当年次 1年

単位区分 必修

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 1

【授業のねらい】

歯科医療現場におけるチーム診療を円滑に行うために、歯科診療および診療介助業務に関する基本的な知識を習得する。①歯科診療の補助と介助の違いを説明できる②歯科材料の種類、成分、用途を説明できる③チーム歯科医療の必要性を述べることができる

【授業の展開計画】

- 1 歯科診療補助・介助とは、歯科診療の流れと診療補助
- 2 医療安全・感染予防
- 3 滅菌・消毒
- 4 主要歯科材料の種類と性質（印象材、石膏、ワックス）
- 5 主要歯科材料の種類と性質（合着材、仮封材）
- 6 主要歯科材料の種類と性質（成型歯冠修復用コンポジットレジン、シーラント）
- 7 全身疾患をもつ患者と歯科診療
- 8 チーム歯科医療、歯科訪問診療

【履修上の注意事項】

授業後に復習をしてください。

【評価方法】

期末試験（70%）、レポート（30%）により評価する。

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：新歯科衛生士教本 歯科診療補助，医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会監修：新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い，医歯薬出版

歯科診療補助実習 I (基礎)

担当教員 石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、前原 朝子、金子 憲章、北田 勝浩、近藤 悠美、未定

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医療現場におけるチーム医療を安全かつ円滑に行うために、療法別の歯科診療補助および歯科診療介助業務に関する知識と、基本的な技術および態度を習得する。①歯科における療法別の治療の流れが説明できる②歯科における治療の流れと使用器具を関連づけることができる③日常的手洗いの方法を実施できる④歯科において使用する基本的な器具を適切に使用することができる

【授業の展開計画】

授業の1～14回は講義、15～30回は実習中心で実施する。

- 1-2 歯科診療補助の意義、補助と介助、歯科診療室の設備・機器（石川、松尾）
- 3-4 セメント、成形修復材、印象材、石膏の種類と用途（石川）
- 5-6 検査に使用する器材と使用方法、画像検査法、写真処理、画像保管（石川）
- 7-8 保存修復、歯内療法、歯周診療時、補綴診療時に使用する器材と使用方法（石川）
- 9-10 口腔外科治療、麻酔時、矯正時に使用する器材と使用方法（石川）
- 11-12 小児・障害者・高齢者・歯科訪問診療時に使用する器材と使用方法（石川）
- 13-14 全身管理と救急救命処置、これまでのまとめ（石川）
- 15-16 器械・器具の消毒・滅菌／医療安全・感染予防の考え方、日常的手洗いの方法（近藤・松尾・久保田／淀川・石川）
- 17-18 器械・器具の消毒・滅菌／医療安全・感染予防の考え方、日常的手洗いの方法（近藤・松尾・久保田／淀川・石川）
- 19-20 ユニットの使用方法、ごみの分別（松尾・近藤・石井・久保田）
- 21-22 患者誘導・ポジション・姿勢・ライティング（近藤・松尾・石川・久保田）
- 23-24 基本セット（ピンセット・ミラー・探針）の使用方法、セッシの使用方法、綿球・ガーゼ・ロールワッテ・ブローチ綿栓作成法（石川・近藤・石井・久保田）
- 25-26 口腔内洗浄の方法、バキューム操作（松尾・石川・久保田）
- 27-28 医療面接技法、医療面接技法を使用して指導を行う（石川・前原・久保田）
- 29-30 総合実習（石川・石井・松尾・近藤・前原・久保田）

【履修上の注意事項】

1年次に学習した歯科診療補助総論を復習してください。
実習の内容については、テキストや資料をよく読み、予習および復習を行ってください。
実習を行う場合には、実習衣を着用してください。

【評価方法】

実技試験70%、筆記試験30%

【テキスト】

全国歯科衛生士教育協議会監修：最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論，医歯薬出版
松井恭平ほか編：歯科衛生士のための歯科臨床概論，医歯薬出版

【参考文献】

全国歯科衛生士教育協議会監修：新歯科衛生士教本 歯科器械の知識と取り扱い，医歯薬出版

歯科診療補助実習Ⅱ(臨床)

担当教員 近藤 悠美、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、前原 朝子、金子 憲章、北田 勝浩、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割や意義について理解し、実際の歯科診療補助を安全かつ円滑に行うために必要な知識・技術・態度を身につけることができる

【授業の展開計画】

- 1・2. フォーハンドテクニック・共同動作を習得する(石川・近藤・松尾)
- 3-6. 口腔内診査の基本を理解する(淀川・金子・松尾)
合着材・接着剤の種類・用途・性質について理解し、取扱いを実施する(近藤・前原)
- 7・8. 修復材・仮封材・根管充填剤の種類・用途・性質について理解し、取り扱いを実施する(近藤・未定)
- 9・10. タッフルマイヤー型マトリックスバンドの取扱いを習得する(金子・近藤・北田)
光重合型コンポジットレジン修復の適応・手順・使用器具について理解する(金子・近藤・北田)
- 11-14. 口腔内写真の撮り方を理解する(松尾・石井)
ラバーダム防湿の意義を理解し、手順に沿って実施する(近藤・金子・北田)
- 15・16. アルジネート印象材・石膏の取扱いを理解する(松尾・石川・前原)
- 17-22. アルジネート印象採得(松尾・石川・石井)
レントゲン撮影の手順および補助の方法を理解する(金子・近藤)
外科器具の取扱いについて理解する(松尾・淀川)
- 23-26. アルジネート印象材を用いて印象採得・スタディーモデルの作成法を理解する(松尾・北田・未定)
ラバー系印象材・寒天印象材を用いた連合印象を理解する(近藤・金子)
- 27・28. レントゲンの読影およびマウントの方法を理解する(金子・近藤)
歯科診療時の診療補助においてセメント練和、アルジネート印象練和・器具の取扱いについて習得する(近藤・金子・松尾)
- 29・30. 実技試験(近藤・金子・石川)

臨床実習室および模型実習室を使用して、2部形式の実習を行う場合がある

【履修上の注意事項】

演習の内容についてテキストや資料をよく読み、予習して臨むこと。
演習後は、十分に復習すること。
実習衣を着用し、実習に臨むこと。

【評価方法】

実技試験：50%、随時の小テスト・レポート・成果物：50%

【テキスト】

最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 保存修復・歯内療法(医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本 歯科放射線(医歯薬出版)、最新歯科衛生士教本 口腔外科(医歯薬出版)

【参考文献】

適宜、紹介する

歯科医療安全学

担当教員 淀川 尚子、徳永 淳也

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 必修

授業形態 講義

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

安全で質の高い医療を目指すには医療安全の考え方をもとに事故防止やエラーを防止することが重要である。医療安全の理解を深め、歯科医療における事故の背景や要因を認識し、事故防止のための予防対策および事故発生の対応について習得することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	医療における安全の概念を理解する (徳永)
2	歯科医療における安全管理の考え方を理解する (淀川)
3	スタンダードプリコーションに基づいた感染管理について理解する (淀川)
4	歯科医療における感染予防対策を理解する (淀川)
5	事例を通して感染予防対策を考える (淀川)
6	医療事故の原因とヒューマンエラーについて考える (淀川)
7	歯科医療におけるリスクマネジメントの実際を理解する (淀川)
8	事例を通し事故防止のため危険因子を挙げ予防対策を考える (淀川)
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【履修上の注意事項】

講義資料をファイルし、教科書と一緒に持参すること。事前学習は教科書を熟読し、新聞、ニュース等であがっている医療事故に関心をもち情報収集を行う。事後学習は講義資料や教科書を参考に復習し、疑問点は質問等を行い理解するようにする。

【評価方法】

随時 (小テスト・レポート90%)、グループワーク時の発言内容 (10%) を総合して評価する。

【テキスト】

歯科衛生士のための歯科医療安全管理 尾崎哲則他編 (医歯薬出版)
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版)

【参考文献】

適宜紹介する

口腔保健臨床実習 I (早期実習)

担当教員 近藤 悠美、石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、前原 朝子、金子 憲章、北田 勝浩、未定

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 1

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 臨床の場における歯科衛生士の役割を考える。
- (2) 口腔保健の活動の場として臨床を認識し、口腔保健学について学びを深める動機づけとする。
- (3) 一次医療と三次医療の違いを理解する。

【授業の展開計画】

実習目標

- (1) 歯科衛生士の役割を列挙することができる
- (2) 患者のニーズを列挙することができる
- (3) 一次医療と三次医療について、歯科診療所と鹿児島大学病院での実習を比較して述べることができる
- (4) 2年次における学習目標を列挙することができる

1. 歯科診療所

歯科医療全体の流れを理解する

歯科衛生士の業務である歯科予防処置、歯科診療補助、口腔保健指導の実際と活動の場を見学する。

2. 鹿児島大学病院

1) 大学病院の機能と各診療科の専門性ならびに歯科衛生士、看護師等の役割を理解する。

保存科・歯周病科・冠ブリッジ科・義歯補綴科・小児歯科・矯正歯科・口腔保健科
口腔外科・口腔顎顔面外科・歯科病棟

2) 歯科衛生士の業務の実際および歯科医療従事者(歯科医師、看護師、放射線技師等)の活動の場を見学する。

<実習計画>

オリエンテーション 半日、 実習前指導 1日、 歯科診療所 4日、鹿児島大学病院 1日、
実習後指導 1日

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って臨むこと。

実習した事柄は、振り返りを行い、以降の実習に生かせるように考察をすること。

健康管理に注意して実習に臨むこと。

【評価方法】

実習指導者評価(60%)、学内教員評価(40%)

【テキスト】

実習前指導で配布した資料

新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論 全国歯科衛生士教育協議会監修 (医歯薬出版)

【参考文献】

口腔保健臨床実習Ⅱ（基礎実習）

担当教員 石川 裕子、石井 里加子、淀川 尚子、松尾 文、近藤 悠美、前原 朝子、金子 憲章、北田 勝浩、未定

配当年次 2年

開講時期 第2学期

単位区分 必修

授業形態 実習

単位数 3

準備事項

備考

【授業のねらい】

口腔保健学における専門分野・専門基礎分野で学んだ知識と見学、体験を関連づけて歯科衛生士の役割を考察する。一次医療を観察して口腔保健の意義を考え口腔保健学を学ぶ態度を養う。

【授業の展開計画】

歯科診療所、歯科口腔病院において臨床・臨地実習要項に基づいて実習を行う。

- (1) 医療人としての身だしなみで臨むことができる。
- (2) 見学および体験した処置法について記述できる。
- (3) 見学および使用した器具器材の名称を記述できる。
- (4) 患者のことは、歯科診療録、歯科衛生士の業務記録から、患者のニーズを拾い出すことができる。
- (5) 患者に対する思いやりを歯科診療所のスタッフの言動から列挙することができる。
- (6) 患者が安全に受診できるように実習生にできる配慮を3つ以上挙げるができる。
- (7) 一次医療における歯科医師と歯科衛生士との役割分担について具体例を挙げて述べるができる。
- (8) 今後の学習課題を3つ以上挙げて報告することができる。

【履修上の注意事項】

実習要項を熟読し、事前学習を行って望むこと。
実習後は振り返りを行い、次の実習につなげること。
体調管理に注意して臨むこと。

【評価方法】

実習指導者評価60%、学内日・実習指導日評価10%、実習記録・レポート30%

【テキスト】

専門科目の教科書および講義・演習で用いた資料、実習前指導時の配布資料

【参考文献】

眞木吉信ら監著：歯科衛生士教育サブテキスト 臨床実習HAND BOOK, クインテッセンス出版